

人文科学国際研究センター公開講演会



日時：2010年6月22日
18:30-20:30

場所：京都大学人文科学研究所
セミナー室1

講演者：Kate McDonald

コメンテータ：高 媛

(駒沢大学 講師)

領土・歴史・アイデンティティ

鮮満観光と大日本帝国の形成

1906年南満州鉄道会社の設立と1910年朝鮮半島併合によって、朝鮮と満州はアジアにおいて大人気の観光地となった。満州と朝鮮は当時「鮮満」と一緒に呼ばれていたが、この鮮満観光を促進しようと南満州鉄道会社と日本観光協会、さらに日本帝国鉄道はたくさんのガイドブックやパンフレットを出版した。それらは、鮮満で見るべき風景や史蹟について見込みのある観光客を紹介するものであった。朝鮮半島の旅行日程をみると、そこには半島に長い間日本が関わってきたこと、また総督府が自然や社会の景観を近代化することに成功したことがわかる。満州の風景は、この地域の波乱に満ちた歴史と日本の技師たちが広大な荒野を工業生産が可能な安定したネットワークへと変貌させた進歩の軌跡を記している。

自決の要求にたいし世界列強が植民地支配の正当性を保持しようと戦ってきた地域において、観光は民衆が領土と関わり、規定していくやり方を形成する機会を与えてくれる。本講演では、日本政府が、観光日程を使って、大日本帝国の正当性を植民地の風景に刻印してきたと論じたい。しかし、日本が、新たに獲得した地域についての知識に飢えている日本の観光客にたいし、回答することはなかった。というのも、多くの観光客が他民族的な帝国において日本人であることの意味を問おうとしたからである。朝鮮と満州への旅行を通じて、旅行家たちは日本の中核へと迫り、近代社会における領土、歴史、アイデンティティの関係を把握したのである。



Kate McDonald

京都大学人文科学研究所研修員

カリフォルニア大学サンディエゴ校 歴史学博士課程

California Rim Foundation Graduate Research Fellow, 2009-2010

Fulbright IIE Graduate Research Fellow, 2008-2009

主催：京都大学人文科学国際研究センター

共催：ECAF (ヨーロッパ・アジア研究コンソーシアム)

ISEAS (イタリア国立東方学研究所)

EFEO (フランス国立極東学院)



問い合わせ

Eメール: shakti@zinbun.kyoto-u.ac.jp

電話: 075-753-6904